

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
340004	X-21-B-2-340004	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化科英語集中コース	専門	選択	1年
日本経済史	堀川 祐里			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

授業目的

日本の産業革命期から現代に至る経済の歴史を、特に労働に焦点を当て、ジェンダーの視点から考察する。本授業の目的は、受講生の歴史を学ぶことについての意義の理解を、年号や重要語句を覚えるといった受験勉強のようなものから、現代社会の問題を解決する方法であるという理解へと発展させることである。本授業の履修に当たっては、高校生までの一定程度の日本史の知識があることが望ましいと言える。ただし、これまで日本史を苦手としていても、各自が自己学習で補うことで、授業についていくことは十分に可能である。

各回の授業内容

<p>第1回</p> <p>【授】 オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。</p> <p>【前・後】 予習として、シラバスをよく読み、特に「受講に当たっての留意事項」と「成績評価方法」について理解しておくこと。授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第2回</p> <p>【授】 ジェンダーの視点から見た経済史</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第3回</p> <p>【授】 官富富岡製糸場と工女</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第4回</p> <p>【授】 産業革命と労働運動の高揚</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第5回</p> <p>【授】 工場法の成立と繊維産業の変遷</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第6回</p> <p>【授】 女性の高学歴化と「職業婦人」</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第7回</p> <p>【授】 社会政策の在り方の国際比較</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第8回</p> <p>【授】 戦時中の日本経済</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p>	<p>第9回</p> <p>【授】 戦前期の日本経済のまとめ</p> <p>※本授業では、2~3名で1組をつくり、グループワークを実施する。</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第10回</p> <p>【授】 戦後の労働状況と労働運動</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第11回</p> <p>【授】 労働組合の歴史</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第12回</p> <p>【授】 高度経済成長期と「専業主婦」</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第13回</p> <p>【授】 国連女子差別撤廃条約の批准と男女雇用機会均等法の制定</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第14回</p> <p>【授】 現代の日本経済</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第15回</p> <p>【授】 まとめ：現代の日本経済を歴史的視点から考える</p> <p>【前・後】 授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決すること。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p> <p>第16回</p> <p>【授】 定期試験</p> <p>【前・後】 「学習到達目標」の達成度を評価するための定期試験を行う。そのために、予習に2時間、復習に2時間を要する。</p>
---	---

成績評価方法

<成績評価>
3種類の評価方法の総合評価であり、その内訳は、定期試験 50%、小テスト 30%、その他 20%である。
※定期試験は持込不可とする。
※授業内小テストは、授業の理解度の確認のため持込可とし、「予告なし」で複数回行う。
※その他として、小レポート、授業内でのリアクションペーパー、グループワーク等の課題を行う。
<課題に対するフィードバックの方法>
小テストに関しては、受講生の理解度に応じて授業内に解説を行う。また、授業内で課題を行った場合には、代表的な意見を取り上げて講評を行う。なお、個別の質問に対しても、適宜対応する。

教科書・参考書

教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。なお、ポータルサイトでの資料配布を行うため、授業の前にはポータルサイトを確認し、適宜資料の印刷を行っておくこと。
自己学習のための参考書としては、以下の文献を挙げる。
金子貞吉（2005）『戦後日本経済の総点検』学文社。
久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編（2015）『ジェンダーから見た日本史』大月書店。
上記に挙げた文献のほか、参考書は授業内に適宜紹介する。

受講に当たっての留意事項

授業に関しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、原則として第1回目の授業に出席すること。
全15回の授業のうち複数回において、「予告なし」の小テストを行う。皆勤が原則であるため、出席自体は評価の対象とはならないが、授業内に実施する小テスト、その他の課題に積極的に取り組むことが必須である。「成績評価方法」に記しているように、定期試験だけを受験して満点を取っても、授業内で行う小テスト、その他の課題での得点がない場合は、単位が付与されないの注意すること。なお、「各回毎の授業内容」は受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがある。
関連科目は「日本経済論」や「社会福祉論」である。これらの授業はお互いの科目の学習内容を補強するため、関連科目を併せて履修することにより、学習が深まる。
最後に、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎むこと。特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退室を促すことがある。この講義は、授業全体を通して受講生が社会人として活躍する将来を展望して展開される。受講生には「大人」としての振る舞いを求める。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

- 1、日本経済史の基礎的知識を身につける。
- 2、講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。
- 3、ジェンダー視点から現代の日本経済について自分の意見を述べるようになる。

JABEE